

和歌山出身の漫画家、中村真理子さんにきく

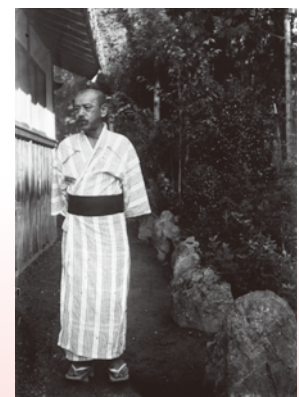
南方熊楠が漫画に登場して話題となっている。それも女性向けの漫画雑誌上で。作者は和歌山市出身の漫画家、中村真理子さん。「生まれ育った和歌山を舞台に、有吉佐和子さんの小説『紀ノ川』のような壮大な物語に挑戦したいと考えていた」と、梅の産地・みなべ町を舞台とした漫画『レッド・

ふるさとを舞台に描く、現代版・南方熊楠。

リン『紅い梅と蒼い梅』を描く。物語は、老舗梅干し屋の娘・リンと台湾出身の兄嫁・メイファの対立を軸に、国や世代を超えた人間ドラマが展開される。主人公のリンは自然を愛し、自由奔放に行動する女性。熊楠がモチーフだ。

熊楠について中村さんは、「当初はとにかくすごい人というイメージだったのですが、調べていくうちに人間くさくてユーモアのあふれる人という印象に。好きなことに夢中になる一途な純粋性に強くひかれました。さらに、

その夢中の結果、海外渡航やエコロジー活動など常に人の一歩先にいるのがすごい」と話す。中村さんのそんな思いを表すように、物語の中で熊楠は行き詰った主人公にアドバイスを贈る「心の師」としても現れる。今後は、熊楠ゆかりの地なども登場予定だ。



南方熊楠顕彰館所蔵

『レッド・リン』の1シーン。写真に残る熊楠の印象とはまた違った表情を楽しませてくれる。リンが夢の中で出会った熊楠の印象は「酒好きの変なおっさん」。熊楠は、義姉・メイファを不審に思うリンに「足を使って調べてみる」とアドバイス。



©中村真理子／講談社



中村真理子さん

Profile

和歌山市生まれ。1980年漫画家デビュー。現在は東京在住。代表作の一つ『ギャルボーイ!』(講談社)は現在も不定期に連載され、TVドラマにもなった。2001年には『クロサワ/炎の映画監督・黒澤明伝』(小学館)で文化庁メディア芸術祭漫画部門・優秀賞を受賞。



熊楠は“オタク文化”の原点?

興味があればひたすら研究や収集を続けた熊楠。「その姿は、現代社会の“オタク”の文化にも通じるのでは。こんなところでも熊楠は一歩先を行っていたのです」と中村さん。写真は熊楠が収集した切手帳。その数約3,000枚といわれる。



南方熊楠顕彰館所蔵



レッド・リン

—紅い梅と蒼い梅—

第1巻 好評発売中!

コミック誌『BE・LOVE』(毎月1日・15日発売／講談社)連載中。リンとメイファの衝撃的な出会いや闘いの幕開けを描いた第1巻は好評発売中。人間ドラマが大いに盛り上がる第2巻は4月13日刊行予定。